

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

実施団体名

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(先進的医療イノベーション人材養成事業)
：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、石川県立看護大学

概要

高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とし、北陸では金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請し「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」として平成24年度から平成28年度の5年間の事業である。本事業の特徴は、北陸地区における医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療、③がん研究者養成より構成されている。①教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授（研究科長）

委員：石垣教授（学長）、松原教授、今井教授、岩城准教授、林講師、金谷講師、
松本助教、寺井助教、磯助教、山崎助教、大西助手、瀧澤特任助手、
寺沢教務学生課長

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

- 1) 2015年度から、共通科目B（3P）6単位と「がん看護学実習Ⅲ」4単位を追加し、38単位履修による教育を開始し、それに伴い、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、病態生理学の強化、実習内容の強化（医師とのカンファレンスの実施による診断技術の強化）を行った。今年度は、2名の本科生入学があり、在学生2名を合わせて4名の教育を行った。
- 2) がん看護専門看護師としての国際的知識・技術の習得のため、イギリスのホスピス・緩和ケアの先駆けとなった、シシリー・ソンドース博士の聖クリストファー・ホスピスや、ドロシーハウス・ホスピス、ペニー・ブローン・キャンサーケアを、1名の本科生が訪問した。研修内容について、がんプロ報告書、本学ホームページにて報告した。
- 3) インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

<インテンシブAコース>

本科生を修了した者へのがん看護専門看護師受験をサポートするために、インテンシブAコースを実施している。本コースは3名の申請があった。

<地域がん看護師養成コース>

地域がん看護師養成コースⅠは、大学院での科目履修を目的とするもので、今年度は、申請者は1名であった。地域がん看護師養成コースⅡは、大学院への入学は予定していないが、最新のがん看護の知識を得たい人を対象としたものである。今年度は、7名であった。

毎月1回実施しているテレビ会議システムによる事例検討の後、がん看護専門看護師によるミニレクチャーへの参加を義務づけている。沿革の施設にいながらにして、事例の検討に参加し、他施設のがん看護の実践の様子を知ることができ、がん看護実践における知識や思考を支援している。今年度の事例検討会には700名が参加した。

<地域がん看護活性化コース>

何らかの事情で現在休職あるいは退職している看護師を対象にしたコースで、がんプロ主催の公開講座や事例検討会などに参加することを通して、現在臨床で行われている様々な問題を聞き、再就業へのバリアを解消し、再就業しやすい環境を整えることを目的としたもの。今年度は、3名の看護師が申請した。

2. がんプロ企画の実施と評価

1) 「みんなで取り組もう抗がん剤における暴露対策」公開講演会の実施・評価

5月にテレビ会議システムを利用して、各拠点大学と参加希望病院合わせて11施設をつないで、同志社女子大学の中西教授を招き、抗がん剤暴露予防に関する講演を行った。154名が参加し、抗がん剤暴露予防に関する知識が固まったとの意見が聞かれた。

2) 「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」研修の企画・評価

今年度は、石川県済生会金沢病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の高地弥里さんを講師として招き、7月10日（日）に本学成人看護学実習室にて実施した。昨年より20名程度多い70名の看護師が参加した。「知識から実技までわかった」「細かく説明してもらえて理解できた」など、高評価を得た。一方で、「実際の症例について聞きたかった」「終末期患者のケアについてさらに聞きたかった」などの意見も得た。

3) 公開事例検討会のCNS対象クローズド事例検討会企画・評価

①本学地域ケア総合センターとの共同企画で、「複雑な事例へのアプローチ ～高度実践看護師から学ぶ～」と題し公開事例検討会を実施した。

今年度は、神奈川県立がんセンターがん看護専門看護師の清水奈緒美さんと、ナース・プラクティショナーである診療看護師1名、本学修了の2名の専門看護師（がん1名、老人1名）をお招きし、9月22日に大講義室にて実施した。自殺企図のある老年期のがん患者への支援の在り方について、身体面、精神面へのエビデンスに基づいたアセスメントなどについて検討した。当日は約50名の県内外の看護師、専門看護師が参加し、内容に「大変満足・満足」していた参加者は90%を占めていた。

②CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクローズド事例検討会を2回実施した。8月19日には、

北里大学病院のがん看護専門看護師の坂下智珠子さんをお呼びし、21名が参加した。9月21日には、神奈川県立がんセンターの清水奈緒美OCNSをお呼びし、実施した。21名が参加した。

4) FD・SD講演会の企画・評価

平成28年12月17日(土)13時からホテル金沢に於いて、板井孝壱郎先生(宮崎大学 生命・医療倫理学教授)、我妻孝則氏(金沢医科大学病院 がん看護専門看護師)、村上真由美氏(富山赤十字病院 がん看護専門看護師)を講師に迎え、「多様な価値観に基づく意思決定の支援 ～がん治療の選択における倫理的問題～」を開催した。医療者、患者、その家族と価値観が違う中、いかに解決に導いていけばよいかを倫理的問題を捉える視点、専門看護師の関わり、リンクナースへの支援と院内での取り組みやその方法について3名の講師から、各テーマに沿って講演していただき、その後パネルディスカッションを実施した。当日はおよそ92名の医師、看護師、保健師、介護支援専門員が集まった。90%以上の参加者が「参考になった・とても参考になった」の評価であった。

5) 市民公開講座の実施

3月11日(土)生稲晃子さん招き「がんになっても自分らしく生きる」を開催した。本企画の第1部では、本年度立ち上げた「北陸CNSの会」の会員による講演会を実施した。当日参加者は、医療従事者65名、一般者28名であった。

3. 各企画のアンケート内容の検討・評価

本プログラムは、本年度で5年を迎え終了する。しかし、これまでの実績・ニードをふまえ、次期がんプロ開始までは、がん看護事例検討会、リンパ浮腫研修会などは実施する予定である。また、事例検討会もがん看護専門看護師のみならず、その他の分野のCNS等を巻き込み、小児、老年のがん患者への支援のあり方を検討していきたい。リンパ浮腫ケア研修は、今年度は、基礎編として1日開催にしたことによって希望者が増えて来た。次年度は、さらに、基礎編に参加した人に限り応用編を実施し、技術・知識の向上に努めていきたいと考えている。

外部報告

平成28年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)連携大学の負担金
5,964千円